

# こぶしだより

## Vol.372

2015・10・3発行

チャリティーウォーク  
今年もチームこぶし  
発進します!

### 【400字で語る福祉③⑧】

視野は広く  
捉われず



◎富山 宏美さん

(上三川障がい児・者生活相談支援センター  
相談支援専門員)

福祉とは誰もが生活を送る上で必要としていることだと思います。身近なところを思い返してみると、自然の流れで当たり前前の行動が本当は福祉であったり、何かしらの形で誰もが関わっていることもあります。多く社会の中にある福祉を探してみると面白いと思います。

相談支援では、福祉の入り口支援を主にしています。その中で既存の福祉サービスにばかりに目を向けてしまうと身動きが取れないことも多く、難しく形が変化してしまうことが多々あります。目で見えていることだけが福祉と捉えるのではなく、他のものを含め考え、視野を広く持つことが必要となってきます。インフォーマルなサービスも含めて様々な視点を持ち、人と人がつながりを持つことを大切に考えながら日々取り組んでいきたいと思っています。



特集の取材で、とちぎボランティアネットワークの事務所に行きました。第3回目のチャリティーウォークが11月7日・8日に行われる予定で、宇都宮市街から中善寺湖畔までの56.7キロを2日かけて歩きます。詳しくはとちぎボランティアネットワーク(567.jimdo.com)まで(☎028-622-0021)。こぶしの会も参加と応援しています。みなさん寄付ください(牧岡)

## ●特集【突撃取材】フードバンクから学ぶ 「脱貧困、生活困窮の実際」…2-5

### ●400字で語る福祉…1,2,5 ③⑧ 富山宏美(上三川相談)

③⑨ 川田浩平(けやきハイツ) ④⑩ 戸田祝夫(チャレンジセンター)



## ●食道さんぽ【おらがそば茶屋】…6-7

### ●報告/けやき作業所、こぶし作業所、上三川ひまわり…8

### ●ギャラリーこぶし…9

### ●こぶしづかん……10

## ●連載【社会モデルを地域文化に】…11

### ●事業所一覧 ●ちえぶくろう…12



## 『手帳を持っていない障がい者』に 起きる困窮にも対応。 フードバンク宇都宮で学んできたぞ

今回のテーマは脱貧困。生活困窮の実態、背景、抜出の方法などを聞いてきました。取材先は「**フードバンク宇都宮**」を運営し、生活困窮者の支援を行う認定NPO法人とちぎボランティアネットワークの徳山篤さん。水曜日の夜7時、Vネット定例会議のタイミングでの取材だったので色んな人が集まっていました。貴重な時間を頂きありがとうございます。（取材：星宮、松本、渡辺）

### 食のセーフティネットを 自分たちで作る運動

フードバンクは「食糧銀行・食品倉庫」を意味する福祉活動で米国が発祥です。「まだ食べられるのに様々な理由で処分されてしまう食品（注1）」を、食べ物に困っている施設や人に届ける活動とのことでした。

いっぽうで現在の日本では、働いてはいるけど低賃金などの理由で生活できない人が数十万人も存在しており、しかも毎年増えています。そんな中で「フードバンク」が生活困窮者や福祉施設に食糧を無償で配ることは、食という命のセーフティネットを自分たちでつくっていくことにつながるとのことでした。相対的貧困率（注2）

が16・1%（1932万人）（厚生労働省2012年国民生活調査）に達しています。この中には解雇・失業、病気、離婚、死別、天涯孤独などで困窮し、毎日の食べ物にも事欠く人も数多く存在します。生活へのリスクが高まるなかでフードバンクのように自分たちで生活を守っていく取り組みの重要性が増してきていると感じました。

### 金銭管理ができない人、病気や障がい で失業・解雇された等様々な理由 がある利用者

徳山さんにフードバンクの利用者と理由について聞きました。

「食糧を求めて色々な人がやってきますが、それぞれに事情があり、生活（食事）に困る背景も様々。つまり『食べ物がないこと』は現象であって原因ではありません。利用される方は、金銭の管理ができずにお金を使い切る人、多重債務、病気や障がい仕事ができなくなったりした人（解雇・失業）、配偶者からのDVなどで離婚された方などです。また、『何らかの支援』が必要だが、福祉制度がないため支援が受けられない人や、制度が

（注1）賞味期限や消費期限がのこっている食品。年間800万トン以上にのぼる。この量は日本の米の全生産量に匹敵する。

（注2）相対的貧困率：国民の所得の中央値の半分以下の人たちの割合

### 400字で語る福祉<sup>39</sup> 原点

◎川田 浩平さん

（けやきハイツ 主任）

始まりは、祖父母の老いを感じた時である。幼い時から面倒を見てもらい、祖父母の力強さを覚えている。しかし、時が経つれ祖父母は弱々しくなっていく。そんな姿を見た私は、次は俺がじいちゃん、ばあちゃんを、助ける番だと心に決めた。

高齢者だけにとらわれず、幅広く福祉を見て行きたいと感じ、辿り着いたのが障がいの世界である。入社して6年目になる私が最近感動したのが、仲間が包丁を使い野菜が切れたこと。本人のやると決めた心強さに私はパワーを頂いた。

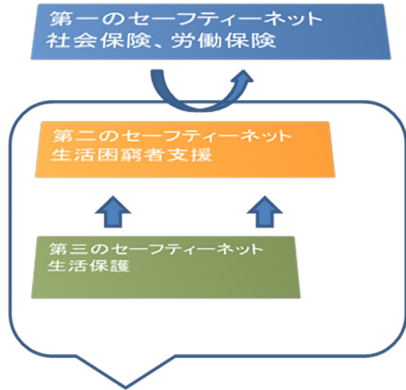


あっても制度の存在を知らない人も多い。」と徳山さん。生活（食事）に困る理由は色々あって複数の要因が絡み合っているようです。一概には言えませんが、それでもフードバンクを利用する人のタイプは大きく3つに分けられるとのこと。

## ①浮動し、見えない生活困窮者

第1の類型は、職と住居がないことで、浮動し・見えない生活困窮者です。住居がない生活困窮者は30～50代男性で職を求めて移動している場合（**求職移動型**）と、家族との不和や精神疾患・薬物依存などで求職の気力もなく、**やむなく路上**にいる場合（60代以上や20代の若年

安定した雇用を前提にした第一のネットと生活保護の第三のネットが国民生活を支えてきたが、今の雇用不安に対してそれでは不十分。生活困窮者支援と生活保護を一体的に運用することで早期の自立支援が望まれる。



相対的貧困率16.1%（厚労省2012年国民生活調査より）

無業者）に大別されます。求職移動型は、フードバンク宇都宮の利用者の4割を占め、首都圏から福島を除染作業に職を求めて行く人や、逆に首都圏や関西圏に向かう人などがあります。「職を求めて」と言えば聞こえはよいのですが、聞き取りからは地元や仲間の縁をつなげずに職を求めて転々としている人が多く、印象としては向こう見ずな人が多いように感じます。行き先もよく決ま

ないまま首都圏を目指す人や、福島に行けば除染の仕事がある等と、漠然とした思いで移動しています。職種も一定せず、技術の習得もできないまま辞めてしまい、社会保険の加入もわからずにその日暮らしになることも多い。地域や人への愛着も薄く、親族との縁が切れていて、住居と職を求めて全国を転々としています。定着の意志がない人には数日分のすぐに食べられるカップ麺やパン等を寄贈しているといえます。

一方、**やむなく路上型**は、本会が毎週のホームレス巡回（夜回り）で発見・保護しており、年2回の炊き出しイベントでの紹介、元ホームレス経験者が発見して本会を紹介することが多く、目視と聞き込みによる発見が有効です。

さまよい続けている理由は、縁がある人、親身になって世話してくれる

人がいないからであり、フードバンク宇都宮で食事をして、ここに入り込んでいる元困窮者のボランティアと話をしたり

することで「宇都宮で定着するか」と決める人も多い。こうした事例から、「困っ

ても助けてくれる人（団体）がいる」という

安心感は、さすらっている生活困窮者にとって生活を立て直す大きな力（きっかけ）になると考えています。

## ②サービスクサの支援も必要とする生活困窮者

第2の類型は、既存の制度につながってはいないが、何らかの理由でサービスクサの支援も必要とする生活困窮者です。母子家庭は非正規就労の比率が高く経済的な脆弱性があり、病气、怪我、失業などで容易に困窮してしまう。把握には関係機関からの情報提供が効果的だと思ふとのこと。母子家庭の他にも若年無業者、高齢者世帯、軽度の知的障害（が疑われる）等の单身世帯、対人関係が苦手な人などには、金銭管理、借金、依存症などの課題があり、家計支援や嗜癖問題の自助グループへの参加の促し等が必要とされます。

こうした要支援者はすでに制度・サービスにつながっていることがほとんどですが、「制度適用



## 豆知識 1

### 生活困窮者自立支援法の施行

2015年4月から、生活困窮者自立支援法が施行され、生活全般にわたる困りごとの相談・支援の窓口が全国に設置されている。

働きたくても働けない、住む所がない、など、相談窓口では一人ひとりの状況に合わせた支援プランを作成し、専門の支援員が相談者に寄り添いながら、他の専門機関と連携して、解決に向けた支援を行う。(生活保護者は対象外)

支援内容は、相談窓口となる自立相談支援事業の他、住居確保給付金・就労準備支援事業・就労訓練事業・家計相談支援事業・子どもの学習支援事業・一時生活支援事業がある。なお、自立相談支援事業の実施、住居確保給付金の支給については、福祉事務所設置自治体が必ず実施しなければならない必須事業として位置付けられている一方、その他の事業については、地域の実情に応じて実施する

までの間」の支援、「制度の枠外のちよつとした支援がない」ことで困っていることが非常に多く、NPOやボランティアが行う民間ならではの柔軟かつ即効的な支援が必要だと考えています。

### ③ ひきこもる生活困窮者

第3の類型は、**サービス利用そのものを躊躇するひきこもる生活困窮者**です。本会は、過去3年間にわたり、よりそいホットラインという「分野を問わない24時間365日の電話相談・支援」と連携して、サービス利用

そのものを躊躇しているひきこもる生活困窮者の相談・支援をしてきました。その中でわかってきたことは住居あるなしにかかわらず、精神疾患、発達障害などでサービス利用申請自体に行けない、行く気力がない人が多数存在することでした。

こうした人は自宅にひきこもり、孤独・孤立している場合が多く、家族がいても関係自体が悪化している人もいます。ひきこもる生活困窮者にはよりそいホットラインの手法を応用した「電話相談↓サービス利用のための心のケア↓訪問↓同行支援」への流れと、精神保健分野のワーカーとの連携が必要だと考えています。

**個人的な事情だけでなく、社会的な要因も困窮の原因。日本社会の変化が背景にある**

困窮者が増えた背景には「経済のグローバル化」「人と人のつながりの希薄化」があると徳山さん。国際的な競争になって、これまでの終身雇用が少なくなってきた一方で派遣労働などの不安定な雇用形態が増えて、経済的構造の変化があるとのことでした。

また、人間関係の希薄化とは、個人も企業も余裕がなくなってきた社会で、周りに無関心にならざるを得ない社会に原因があるとのことでした。

徳山さんは「以前の日本社会は、たとえ個人に困窮する要素があってもそれを補う社会（助け合う社会）だったと思います。どこの町内にも面倒見の良い人がいて世話をしてくれたら、また、仕事を探すにも多少問題がなくても雇ってやろうという気概のある社長がいたものです。最近はそうした人も減ってきているように思います。すべて昔がいいとは言いませんが、今とは違い助け合い感のある社会だった気がしますね。」と話されました。



今回の取材に協力してくださった面々。素性も経歴も様々な人たちが集まってくるのもVネットの魅力でしょうか。

**貧困からの脱出のため制度化されたことでの画一化を危惧。グレーゾーンへの支援を！**

徳山さんの話を聞いて、社会的な包容力(社会的包摂)が弱まっているのだなと思いました。確かに、「自分のことは自分で」という風潮が強まっていますし、そんな

社会では、生活に困難を抱えた時に社会的な支援が必要になります。これまで先駆者が地道に行ってきた仕事は「生活困窮者自立支援法」に制度化されてきたのもその表れですが、「制度化されたことで画一的なサービスになる」と危険だとも思いました。制度化されていなかったころの柔軟性を補完できるような運用が法的には必要だと思えます。

## 「こぶしの会のグレーゾーンとは」手帳のない障がい者の「ハト」

取材を終えて改めて考えてみると、困窮の原因には①人間関係の希薄 ②支援の狭間 ③孤独・孤立 ④日本社会の変化がありました。人間関係を築くのが上手く、無謀な考えを戒めてくれる（心配してくれる）人がいたりするだけで人は方向性を見失わずに済む。また、適切な支援が得られれば立ち直りも早い。しかし、日本の相対的貧困率は16・1%とされており、その中でも適切な支援を受けている人と受けられていない人がいます。福

## 豆知識2 社会福祉法人としての役割

社会福祉法人が補助金や税制優遇を受けているのは地域における公益的な活動への取り組みを前提としているからで、こうした優遇措置によって得た財源は主たる事業である社会福祉事業はもとより、地域での福祉サービスとして還元することが求められています。

それは、制度化されていない福祉ニーズ（制度の狭間問題）に取り組むチャンスともとらえることができます。今、制度化されていない波打ち際の支援が必要とされています。

社サービスを受けられればよいが、基準を満たさず受けることができない人や一般社会からの支援も受けられない人（グレーゾーン・無支援エリア）が存在しています。こうした制度の狭間が貧困問題をより困難にしています。グレーゾーンの縮小のため、先にも出てきた生活困窮者自立支援法の運用が大きな力となるように思いますが、それでもグレーゾーンは残ると思います。フードバンクのような、制度に基づかない柔軟な支援の仕組みが大きな意味を持っていると感じました。

こぶしの会にとつてもグレーゾーンへの意識は大切だと思います。例えば、福祉サービスを受けていない引きこもりの仲間へのアウトリーチや障がいを持っていても手帳を取得していないがために苦しい生活をしている方などへの支援、浪費癖のある仲間への支援が考えられるのではないのでしょうか。現在、福祉サービスを受けていない（福祉サービスがない）方へどう支援できるか意識を持ちたいと思います。（取材・文：星善昌、松本、渡辺）



主催：認定NPO法人とちぎボランティアネットワーク  
フードバンク宇都宮

宇都宮市から奥日光まで  
今年も56.7km歩きます！

ただいま参加者募集中  
2015年11月7日（土）～8日（日）開催

フードバンク宇都宮では、食品の寄贈、寄贈を受けたい団体、ボランティア、運営費の寄付を募集しています。《問い合わせ》とちぎボランティアネットワーク事務局 ☎ 028-622-0021 Email: tvnet1955@ybb.ne.jp URL: <http://www.tochigivnet.com>

## 400字で語る福祉④

◎戸田 悦夫さん

（チャレンジセンター 就労支援員）



## 自分自身穏やかであれ

企業人生9割を福祉とは全くというほど関わりない人生を送っていた自分が、ある時期を境に障がい者雇用担当専従となりました。私自身福祉については知識もない素人で何も分からず理解もできず毎日が手探りでしたが、心がけたのは、とにかく仲間を理解しようとの気持ちと、子を持つ親の立場です。一人立ちできる企業人としての心構えを時には厳しく指導しましたが理解していただけるか半信半疑の日々でした。時間はか

かりましたが、お互い理解し合う気持ちを持ったことと、仕事に取り組む一生懸命さと、笑顔を絶やさない関係が構築できたことで心に余裕ができ穏やかになれた自分があり、逆に仲間から勉強させて頂きました。企業退職時に仲間の親御さんより多数のお礼状を頂き、微力ながら障害者雇用に貢献できたかなと自負しております。

私はしょっちゅう初心を忘れることがありますので、時折頂いた手紙を読み返しては反省しきりです。今心がけている事は、めげずに、明るく、元気よく、前向きにです。そうすることで自分の心に余裕ができ、ひいては人に優しく接することで福祉の精神の一端を担えればと考え、現在チャレンジセンター勤務2年目突入です。

# さんぽ そば茶屋

に行ってきました～



そば茶屋  
おらが

ー 9月末から新蕎麦、11月末からは地産地消とききましたか？

蕎麦の成長により前後しますが、そばの作付面積・生産量日本一の幌加内産の新蕎麦を9月末から販売します。より風味豊かな新蕎麦の時期に食べていただきたいです。11月末からは栃木県産の上質な蕎麦粉になります。店内で召し上がっていただくだけでなく、お客様の御要望により、生そば、お惣菜、天ぷら、のお持ち帰りも承っております。

ーそれではもう一押し

ギャラリーでは押し花アートの展示や益子焼の展示販売、巾着小物入れの販売も行っており店内を見て楽しみ、落ち着く空間をご用意しております。

ーはたらいている仲間からもひとこと

- ・お客様との会話や「おいしいね」「ありがとう」の言葉が嬉しく、楽しい。
- ・楽しさ、忙しい辛さは半々、お客様が多いと楽しいし、少ないと寂しい、やりがいを感じる。
- ・そば茶屋の仲間同士の雰囲気は良い
- ・お給料がもっと欲しい。

ー店長、今後の意気込みを

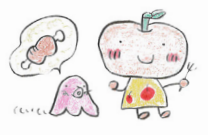
仲間と職員が共に成長していける職場になれるように努力していきたいと思います。そば茶屋の仲間がそば茶屋で働けて良かった。また、仲間が頑張った対価としての工賃が頂ける施設を目指したいと思います。

しく、量もたっぷりで大満足でした。接客もスムーズで、他のお客様への対応を見ても迅速で丁寧な印象を持ちました。さすが5年目ですね。

メニューを見ると、ご飯とのセットもかなり充実していました。おいしいおそばだけを食べるもよし、お腹いっぱいを求めるもよしのおいしい「おらがそば茶屋」でした。



トールファ (豆乳花)  
200円。おいしい^o^



# 食道

## おらがそば

みなさんこんにちは(\*^^)v今回は「おらがそば茶屋」に行ってきました。震災の年の6月がオープンですから、もう5年目に突入しました。早いものです。新蕎麦の季節を目前にメニューも充実しているようですので期待に胸を膨らませて、そばでお腹を膨らませに行ってきまーす。(まきおか)

### 【店長さんにインタビュー】

ーそば茶屋で日々感じることを教えてください

私がそば茶屋へ職員として配属され10月で2年6カ月になります。

お店を職業指導の場としていますので、仕事量の多さを感じています。また、お客様への対応を理由に仲間たちへの十分な支援が出来ていないのではないかと不安になることが多々あります。

ー調理、接客、利益追求と施設とは違った大変さがありますよね。その中で感じる嬉しいことは？

嬉しかったことは、仲間の就職や、仕事を通じて感じられる成長です。元気にあいさつができるようになったり、初めのうちは仕事を教えてもらっただけであった新人の仲間が、自主的に仕事を探し作業できるようになったりと、力をかんじますね。



私たちが丁寧に接客します。よろしくお願ひします。気づいたことは遠慮なくおっしゃってください。



### おらがそば茶屋

芳賀郡芳賀町西水沼 438-2

TEL 028-680-5091 FAX 028-680-5092

営業時間 11:00 ~ 14:00(L.O) 月・火定休

※季節、曜日に合わせた限定商品もご用意させていただいております。土日祝日には10割そば、夏季限定メニュー、冬季限定メニューなど。おすすめ商品は、お得なセットメニュー、茶屋御膳、選べるどん御膳です。



## 立派な野菜すごいでしょ、おいしいよ

けやき作業所家族会会長の豊田功さんのご厚意により今年も立派な畑が登場しました。この畑は企画・環境整備とも家族会の皆さんがおこなっていただきました。

ナス・ネギ・ししとう・きゅうりを栽培し、生活介護で週2回の収穫を行いました。野菜を収穫する人、収穫した野菜を持つ人、畑の除草をする人とそれぞれ役割をもって取り組みました。いまでは自ら作業に取り組めるまでになりました。収穫した野菜を前に大変嬉しそうな笑顔を見せてくれます。

収穫した野菜は作業所内で販売するだけではなく、厨房班では“ナスの蒲焼き丼”に、おらがそば茶屋では、“旬の野菜天ぷら”に使用されています。お立ち寄りの際はぜひご賞味ください。(阿久津)

けやき  
作業所

## 報告

### 月に1度のお楽しみ ゆずり葉の会さんと さをり織り

こぶし作業所では、毎月第四木曜日にボランティアサークル「ゆずり葉の会」さんに来ていただき、さをり織りの活動を手伝ってもらっています。仲間のペースをみながらゆっくり丁寧に行っていただいています。さをり織りを楽しみにしている仲間はもちろんなのですが、お話をするのを楽しみにしている仲間もいて、さをり織りの活動を通してボランティアさんとの交流も深まってきました。(布野)



こぶし  
作業所

### 11月14日はこぶしまつり! バザーと焼きたてパンと太鼓

イベント告知です。  
今年も「こぶしまつり」やります。バザーや焼きたてパンに真岡の尊徳太鼓(予定)の生演奏などたくさんの出し物で楽しいおまつりにします。皆様お誘い合わせの上ご来場ください。当日の駐車場などの問い合わせはこぶし作業所まで(028-653-1020)。(先灘)

### 上三川 ひまわり



自動車総連から、物品の寄贈。ありがとうございました。

上三川ふれあいの家ひまわりに自動車総連栃木地方協議会様から物品の寄贈がありました。日頃の活動や支援経過の記録、ホームページ作成時に大活躍が期待できる一眼レフカメラとビデオカメラに加え、外出時や緊急時に必要な折りたたみ式スロープが贈られ、職員、利用者ともに笑顔があふれていました。大切に使用します。ありがとうございました。(牧岡)

※写真は、目録を贈呈される中島一実議長と、ひまわり利用者自治会会長の鉢村好司さん。



# みんなのアイデアと努力で 素敵なつるし雛ができました

# GALLERY KoBuShi



こぶし作業所の生活介護班では、土曜の活動日を使ってつるし雛を作りました。  
折り紙で、兜、やつこさん、こいのぼり、風船を仲間が作り、ご家族にもご協力をいただき使用済みの牛乳パックで花も作りました。折り紙でのパーツ作りは和気あいあいと楽しみながら取り組み、職員のアイデアで房とビーズを付けたりと制作の途中で試行錯誤しながらも、全てのパーツを合わせて紐に通し完成！ みんなの思いの詰まった素敵なつるし雛ができました。(布野)



今回は、4月からACTION(アクション)さんで就業している古橋緩之さんの職場に行つて、お話を伺ってきました。

普段は、ペットボトルの破砕を担当しているのですが、今回は発泡スチロールの溶解作業を一人で(！)担当されました。色々な廃棄物を、再生できるようにしたり、分解したりするのが、主な仕事だそうです。

勤務はシフト制で、古橋さんは午後1時から5時までの勤務。最近では涼しくなりましたが、夏の暑い時期は大変そうです。作業場には大きな機械がたくさんあって、音も大きいのですが、古橋さんは黙々と作業をしていました。

♥お仕事は慣れましたか？

少し大変だけど、大丈夫。帰るとご飯を食べて、すぐに寝ちゃう。

♥晩御飯は何を食べていますか？

お弁当が好き。幕の内弁当が好物で、

遠出して趣味に勤しんでます

将来のために貯金も始めたよ

一般就労者の現在



れからも頑張ってください!! (北川)

いつも買ってる。  
♥ゲームが趣味だと聞きましたが、今は何をやってますか？  
パズドラ。仕事の日は、疲れて寝ちゃうから、休みの日にやってる。  
パズドラ、今のランクは？とお聞きしたら「忘れた！」と言われてしまいました。教えたくないのか、忘れるほどやりこんでいるのか…。

お話を伺っていると笑顔も多く、以前の古橋さんより元気になっている気がしました。休みをとって、趣味のために遠出することもあるそうです(どこへ行ったのかは秘密だそうです)。

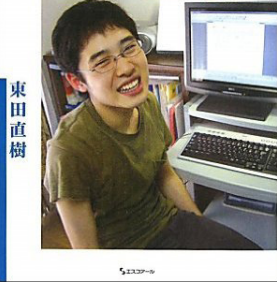
将来のために貯金も始めたとのこと、仕事も遊びも充実しているようです。  
雨の日も、風の日も自転車通勤している古橋さん。運転には十分に気をつけて、こ

## わたしのおすすめの本

# こぶしづかん

### 続・自閉症の僕が跳びはねる理由

会話のできない高校生がたどる心の軌跡



続・自閉症の僕が跳びはねる理由 ～会話のできない高校生がたどる心の軌跡～

●東田直樹 / 著 ●エスコアール出版部刊 ●2010年10月発行 ●本体1600(税別)

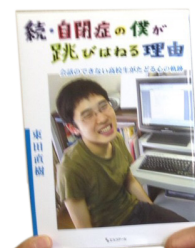
### 唯一性の大切さを改めて考えさせられた本

今年4月からチャレンジセンターの副センター長として仕事している中見政男さんのお奨め本は「続・自閉症の僕が跳びはねる理由」。

この本は自閉症の著者がインタビュー形式で質問に答える形となっており、まっすぐな思いが書かれています。NHKでも紹介されたとのことでご存知の方もいらっしゃるかもしれません。

中見さんの福祉経験は豊富で、障がい者の施設職員(サービス管理責任者)、相談支援専門員などの業務に取り組んでいました。ストレス発散方法は毎日のようにギターを弾き、歌を口ずさむことだそうです。ロック、フォーク、ポップスなど分野は様々、時には奥様に歌ってもらうこともある

そうです。愛妻家ですね。そして大工の経験もあり、特技は今流行のDIY! 「木のぬくもりのある本棚や椅子を手作ります! ものづくりも好きで自宅には自分で作ったものが置いてありますよ。様々な仕事の経験を活かして仕事したい!」とお話してくださいました。(富山)

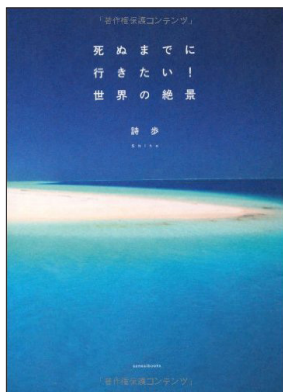


中見政男さん(なかみ・まさお)  
チャレンジセンター副センター長

### 死ぬまでに行きたいんです!

今年度も引き続き相談支援センターのどかとチャレンジセンター兼務の河原さんから「死ぬまでに行きたい!世界の絶景」を紹介していただきました。本屋に立ち寄った際、題名にひかれ購入。内容は自然が織りなす絶景や、匠の技が作り出す建造物など世界各地の神秘的な写真が載っていてとても気に入ったそうです。

そんな河原さんの趣味は「旅行」。自然が作り出す絶景を探しに国内外へ足を運んでいるそう

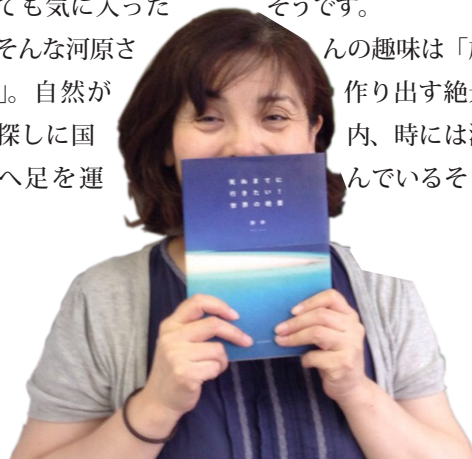


死ぬまでに行きたい!世界の絶景

●詩歩 / 著 ●株式会社三オブックス / 発行 ●2013年発行 ●定価1300円+税

河原とき子  
(かわはら・ときこ)

チャレンジセンター、相談支援センターのどか 兼務



です。オススメの季節は夏と秋。季節の変わりゆく姿が作り出すものをみることによって息抜きになったりするそうです。この本を見て実感したことは写真では表現できないほどのものが現地にはある!ということだそうです。

チャレンジセンターでは企業との連絡調整や就労へのフォロー、相談支援センターではサービス等利用計画の作成と二足のわらじを履く河原さん。大変な仕事を乗り越える方法をお聞きすると、日々の仕事で行き詰ってしまう時こそあえて粘らずに帰宅するようにして、業務をこなすに当たり切り替えを大切にしているとのことでした。

休みの日は温泉や友人の所へ出かけ自然を見たり、好きなものを食べに行くそうです。「最近は大好きな旅行も忙しのでいけないんだけどね」そんな河原さんがこの本を読んで是非とも行きたいところ...? 「この本には掲載されていませんが、ハワイ島のどこかにある星が降るようにきれいに見える場所」だそうです。(笑)(富山)

# 体験から生まれる私の身体感覚における福祉の仕事とは、制度や専門の枠を超えた連携を作り出していくこと。「ソーシャルワーク」なのだ

社会モデルを地域文化に (第19回)

高橋 温美 (こぶしの会常務理事)



## 私の出会った情熱と信念の女性、Hさん

こぶしだより370号に続いて、グループホーム(以下GH)の話題。

Hさんは、自身がこう決断すると周囲の声は聞こえるが、聞く耳を持たない。断固実行する。生活能力に不安や困難があっても情熱の人である。自らの信条を説明すると、肅々と行動に移す。そして、何度か挫折して私たちのもとに戻ってくる。やっぱり失敗したかという周囲の雰囲気は全くめげない。常識人の私たちであれば恥ずかしくて目の前に出てこられないだろうと思われることでも、さらりと反省の弁を告げ、立ち直りも早い。この堂々とした生き方は、彼女の人生

の中で経験した、数多くの差別や偏見に鍛えられたのではないかと推察される。事実本人は知的障害者への差別・偏見の経験から物事の考え方をリアルに表明できる人である。

私の偽善的常識人ぶりは「こんな右往左往のプロセスこそ個人の生活・人生」だよ、という教授・実習教育を受け、障がい者への偏見(職員の指示に従うよき障がい者像)や期待をやすやすと打ち破り、本来の肉体的な障がい者像をぐいぐいと横つ面に押し、示してくれた。現在、彼女は三人世帯で、GHに母と中学生の息子と暮らしている。当時の私たちは、「働かなければGHの利用はさせない」という制度以前に、この人たちの暮らしの場をつくることで夢中だった。今、彼女のふてぶてしい暮らしぶりを見るたびに、腹立たしく感じてきた過去の経験を含めた彼女の生活を支えることのうれしさを感じるのである。

## 本来のあるべき姿から学んだ支援者としての転換期

ある意味では、福祉のしごとの考え方・価値観を転換させてきた経験というのは、今の制度・施策の考え方にどう反映しているのだろうか、社会福祉制度にとつてはそんなに意味のない事柄なのだろうか。むしろ、こうした実践を支える制度・施策こそ求めたいが、それは効率

的、経済的ではないのだろうか。

少なくとも私には、自身が福祉の仕事に気持ちを込めて従事できるようになってきた一つの大きな経験となっている。ひとりの心ここ(福祉)に有らざる職員が、自己変革し、すこしでも社会的弱者や人間性に基づいた仕事へ向かうきっかけになることは、社会にとつて経済的ではないだろうか。

「働かなければGHの利用はさせない」大げさに聞こえるが当時の社会の哲学であつたと思う。

言葉(理論や制度を説明した言葉を含めて)というのは、もの考え方(論理)で、理路整然としているように見えるが、それは現実(社会)の一断面、見方を切り出したもので、人間としての身体的感覚を含めたその人個人の感情を納得させるものでは決してないし、福祉とは、そうした感情と(制度とは異なる)理論の総体であると思つている。

## 常に専門の枠を超えた連携を作ることこそが真のソーシャルワーカーだと思う

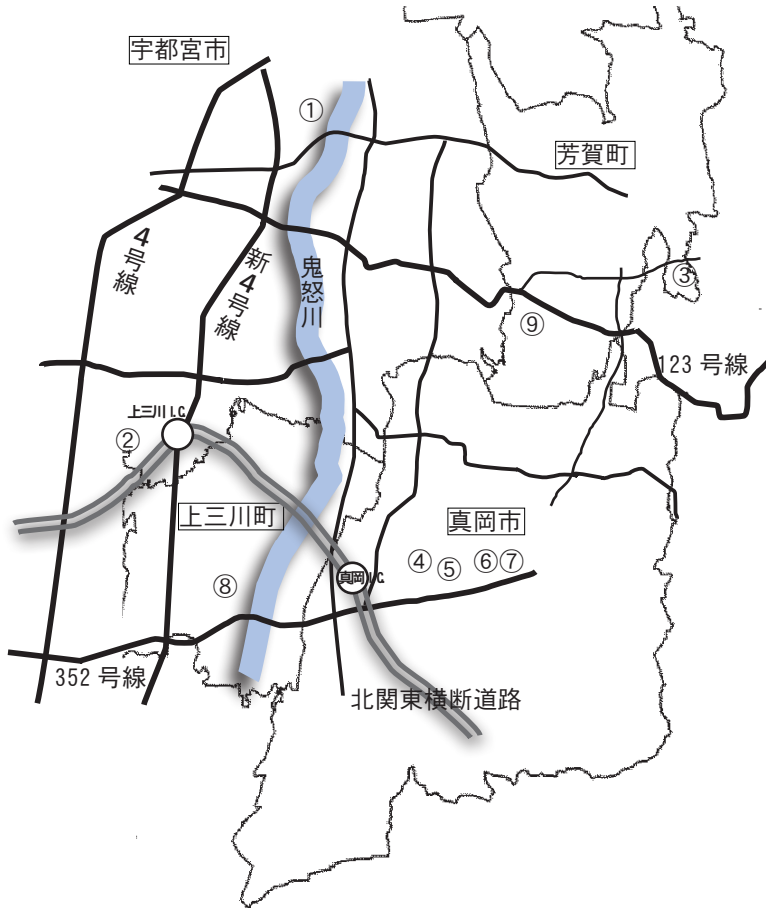
GHの利用要件だが、今もなお援助のための人件費を除いて家賃や食費・光熱水費や生活用品を賄えることが入居の前提になっている。障害者年金2級(平成27年度で約月額65,008円)の利用者でほぼその額は使い果たしてしまうの

が現実だ。重度障害者は、職員体制の困難さから外部のヘルパーを利用する。障がい者の入所施設の格差はあまりにも大きい。なお、生活保護を受給すると単身世帯で8万5千円となり、家賃補助が支給されるからやや年金だけの生活よりはベター。しかし、その現実生活も、利用者総額の範囲内の生活だ。だがその金額での生活を実感できるだろうか。貧困ライン(平成24年度で単身世帯なら、年111万円未満)といわれる生活。ワーキングプア(年収200万円以下)といわれる人たちの生活を、月3万、10万と削っていくのだ。

つまり、制度をつくるとはこのような具体的な生活を「仕訳」していく思想である。自身の身体感覚においては(制度の範囲でサービスを駆使し提供する)社会福祉の仕事とはこうした世界観に基づいた行政代執行的行為と言える。どんなにやさしい言葉を使つてもである。

人間の価値を一面的生産性や効率性にもとづいた経済的視点からのみ捉え、人間の生活を規定していく仕事をするのか、ひとり一人のそれなりの頑張りや存在そのものの価値を評価する仕事を形づくっていくかは、相互理解の技術が必須だ。それには、真に私たちの仕事に垣根を意識しながらも、常に専門の枠を飛び越えて、多くの(法定外のソーシャルワーカーとの)連携をいかに形成していくかにかかっていると思うのだが。

# こぶしの会事業所一覧



- ① 宇都宮市柳田町 1401  
 **こぶしの会法人本部**  
 028-613-3707 (F) 028-666-6128  
 028-666-0418 (居住生活支援事業部)
- ② 宇都宮市茂原町 837-1  
 **こぶし作業所**  
 028-653-1020 (F) 028-688-1121  
 **障がい者生活支援センターこぶし**  
 028-613-5703
- ③ 芳賀郡芳賀町祖母井 2244  
 **けやき作業所**  
 028-687-1040 (F) 028-677-5789  
 **地域活動支援センター「ほっとCHA」**  
 090-7820-9165  
 芳賀郡芳賀町祖母井 1704-8  
 **第2けやき作業所**  
 028-689-8301 (F) 028-689-8302
- ④ 真岡市亀山 1043-23  
 **セルブ・みらい**  
 0285-81-1155 (F) 0285-81-1177
- ⑤ 真岡市荒町 3-9-5  
 **県東ライフサポートセンター真岡**  
 0285-83-2567 (F) 0285-85-8055  
 **お菓子工房 ピケ**  
 0285-81-7091 (F) 0285-81-7092
- ⑥ 真岡市荒町 111-1  
 **県東圏域障害者就業・生活支援センター「チャレンジセンター」**  
 0285-85-8451 (F) 0285-85-8452
- ⑦ 真岡市荒町 110-1 市総合福祉保健センター内  
 **芳賀地区障害児者相談支援センター**  
 0285-80-7765 (F) 0285-80-7765
- ⑧ 河内郡上三川町大字上三川 5082-15  
 **上三川ふれあいの家ひまわり**  
 0285-38-6821 (F) 0285-38-6841  
 **上三川町障がい児・者生活相談支援センター**  
 0285-38-6854  
 **アトリエ・ド・パン シュシュ**  
 0285-56-7731 (F) 0285-56-7732
- ⑨ 芳賀郡芳賀町西水沼 438-2  
 **おらがそば茶屋**  
 028-680-5091 (F) 028-680-5092

## きゅうり

食卓でおなじみの『きゅうり』に関するお話です。きゅうりといえば、お新香にしたり、サラダに入れたりと重宝する野菜ですが、きゅうりは90%以上を水分で占めているため、栄養素がほとんどないんです。“栄養がない野菜”としてギネスブックに登録されているほど。

そんなきゅうりですが、江戸時代には神聖な食べ物とされていました。特に武士の食卓にきゅうりが出されるものならば、打ち首や切腹をしなければいけなかったと伝えられています。

きゅうりを輪切りにした時のお話です。「徳川家の家紋である三つ葉葵にそっくりではないか！こんなものを食べられっこないよ！…きっと罰があたるだろう」ということで、武士はきゅうりを食べることを自粛したそうです。



### 【編集後記】

- ♥先日の大雨では、鬼怒川の橋を渡るのが怖いぐらいに増水していました。読んでくださっている皆さんに被害がなかったことを祈ります。秋は天候が安定しますように…。(北川)
- ◆8月、こぶし作業所ではスイカ割りをしました。とっても盛り上がりましたよ！美味しいスイカも沢山いただきました！スイカ→夏ですね。夏といえばプール！今年は何度か行く機会がありました。浮き輪でプカプカ…何年かぶりにこういうのもいいものだなと思えました。(布野)
- ♣こぶしだより編集委員になり初めて取材をさせていただきました。始めは緊張もありメモを見ながら質問していきました。徐々に話をするのに慣れあつという間に取材時間が過ぎてしまし

た。取材後、インタビュー内容の編集を行いました。記事作りはとても難しかったです。見る側と全く違う、作る側の大変さを実感しました。(富山)

♣いま巷では「シンプルライフ」なるものが流行っています。「物を持たない暮らし」ということです。心を整理し、生き方を見つめ直すには、暮らしをシンプルにするのが一番ということで、どうしたらモノが減らせるか、どういう風にモノを選べばよいかなどを紹介する本もたくさん出ています。ためにいろいろ捨ててみると、なるほどスッキリ！欲にかられてためこんでみても、人生で本当に必要なものは意外と少ないのかもしれない。(星宮)

●『ドラゴンボール』のミスター・サタンが何気なく好きだったりする。大した実力がなくても虚勢と

ハッタリと媚びと要領のよさで生き残っていく。自分にとってはある意味理想形。こういう生き方は大嫌いだという人も多いと思うので、そんな方々とは絶対に分かりあえないでしょうけどww(松本)

■先日、芳賀町にある「一里」というラーメン屋さんに行ってきました。実はこのお店、過去に2度訪れているのですが2回とも「スープ終了のため閉店」という案内のもと食べることができず…。3回目の正直でようやく食べることができました。あっさり醤油のスープに生姜のkokと三つ葉の香りが特徴的な上品な一杯でした。うまいラーメンをお求めの方はぜひ行って下さい。後悔しないと思いますww(阿久津)